俳句

2月18日（土）
当季雑詠

小笠原さちを
薄氷の泡を動かす日射かな
雪嶺を遠くにひとり田搾へ

3月18日（土）
須崎市桑田山

合田　青幹

花冷えの風林間を縫ひ来る
榻に在り長椅子に在り花疲れ
小笠原さちを
蕗の薹水は迂回をして流れ
一片の雲なきみ空山笑ふ

山の上

西村雅人

山の上に　小屋をたて
ロバを飼って
暮らしたい

小屋のとなりに　納屋があり
耳をたらしたロバが
静かに干し草を食べている

夜の山を　見上げると
私の小屋の明かりだけが
ぽつんと　灯っている

君のいる
遠い夜空の上からも
見えるだろうか

消えそうで
消えない
小さな　明かりが

ビキニの海は忘れない　展
―水爆実験の遭遇した漁船員の証言―
展示風景（左　下）

短歌

三回目の右眼の手術
もの言ふも読み書きするも苦しくて礼状出せぬ方たまるのみ
榊原　忠彦

三回目、右眼の手術は超高齢だと医師は叱り励ましつつ終へぬ
好物の旭軒のラーメンも見えずこぼすを娘は嘆きたり
轍を踏む
山本　晶子

年間に百万人が死ぬと言う大気汚染に隣の中国　（NHKスペシャル）
『苦海浄土』石牟礼道子が浮かびくる日本の轍踏み経済の犠牲に
年金とおいしい空気きれいな水、土佐に老いゆく幸せ思う
逆流と本流
叶岡　淑子

「パン屋」ダメ「和菓子屋」よしと文科省　危うさつのる道徳教科化
教室に「教育勅語」「銃剣道」逆流あらわ「一強」政権
被爆者の訴え世界を動かして「国連会議」希望の本流
（3月27～31日、核兵器禁止条約の国連会議（第1会期）に115か国が参加、広島被爆者藤森敏希さんらが発言）

「ビキニの海は忘れない」展
～60年隠された『ビキニ事件』の真実とは～

橋元 陽一

日本政府が60年間隠してきたビキニ核被災の歴史の扉を開けるステージとなった。

2017年4月2日～9日、リニューアルされた高知市立自由民権記念館ホールで、60年余の空白をつなぎとめる「ビキニの海は忘れない」展が開催された。会場には第五福竜丸の資料と写真、ビキニ事件での高知の被災船員の写真と証言、聞き取り調査や報告活動する幡多高校生ゼミの写真、東日本大震災と福島原発事故の被災地の写真などが展示された。また4隻のマグロ船の模型や大漁旗、住吉丸のスクリュウの軸受けとなる木製の基部、航海で測量に使う六分儀やGM管（放射線測定器）、瓶玉やはえ縄漁の餌付のロープ、「死の灰」（レプリカ）、フカのヒレ、船員手帳や日誌なども展示された。

4月8日午後の特別企画では、ビキニの海は忘れない」展の開催に尽力した広島大学名誉教授星正治さん、ビキニ核被災国賠訴訟担当弁護士の梶原守光さん。登壇した8人が、それぞれの立場から発言された。

日本政府がアメリカと一体となって、第五福竜丸以外の延べ1000隻に及ぶマグロ船員などの被ばくの真実を60年余も意図的に隠し続けてきたビキニ核被災の真実に光をあてる扉が開かれた。そしてヒロシマ、ナガサキに続くビキニでの核被災を過小評価する国の姿勢は、福島原発事故の内部被ばくの過小評価に連動していることも告白された。

一日も早い元乗組員への救済措置が求められているが、労災認定の申請も裁判の動向も予断を許さない。救済の道は明らかにされたビキニ核被災の真実を広げていくしかない。

3月1日に発刊した『ビキニ核被災ノート』の購読を広げてください。そして6月16日（金）午前11時30分、高知地裁第205法廷で第5回口頭弁論があります。短い時間ですが、ぜひ傍聴してください。

特別企画　６０年隠された「ビキニ事件」の真実とは